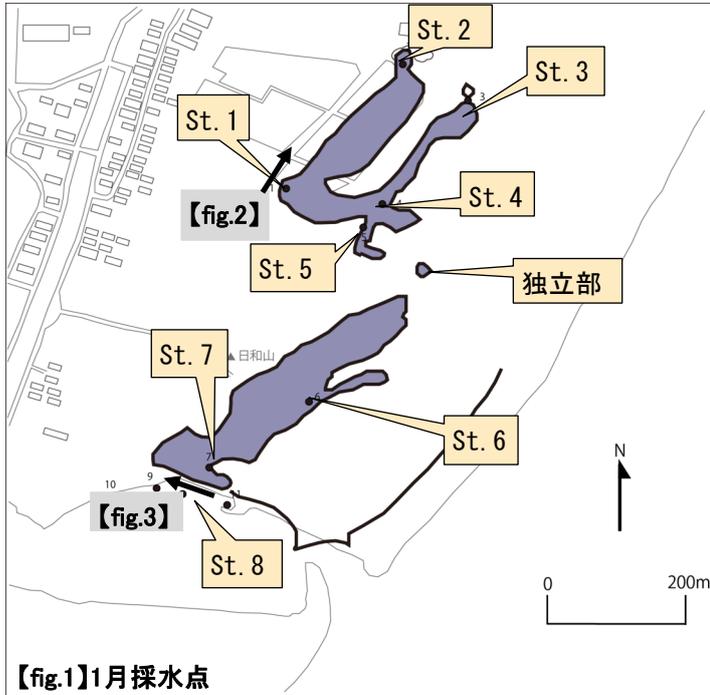


蒲生干潟周辺の塩分濃度⑩



【table1】1月塩分濃度

採水点	1月塩分濃度(%)	1月～12月の 平均塩分濃度(%)	差
St.1	2.4	2.2	+0.2
St.2	1.8	1.4	+1.4
St.3	2.6	1.9	+0.7
St.4	2.9	2.3	+0.6
St.5	—	2.3	—
St.6	3.4	2.6	+0.8
St.7	3.3	2.6	+0.7
St.8	3.0	2.1	+0.9
独立部	2.8	—	—



【fig.2】水門からの流入



【fig.3】導流堤通水部からの流入

平成29年12月6日【fig.1】に示す採水点St.1～St.8から採水，塩分濃度を測定した。調査を行った時刻は9:30～11:00，9:14の満潮を過ぎ，潮位130～120cm程度でゆるやかに潮が引く時間帯にあたる。小潮ではあるが満潮直後にも関わらず潟湖全体の水量は少なく，中心部では独立部を残し湖底が露出し，潟湖は南北に分離していた。また，St.2，St.3，独立部は水の動きに乏しく，水面に3mm程度の氷が認められた。

潟湖に対する水の流出入は，St.1付近の水門から潟湖への流入【fig.2】と，3ヶ所の導流堤通水部分からの流入【fig.3】が目視により確認できた。また，St.1付近の水門から流入する水および潟湖北部の水は，先月の調査に比べて透明度が上がっていた。

塩分濃度は各地点で表層水を3回以上採水・測定し，平均値を1月塩分濃度として【table1】に記載している。水面に氷がある地点では氷を破碎して採水した。1月塩分濃度を2016年1月～12月の平均塩分濃度と比較すると全体的に高く，特にSt.6，St.7を含む潟湖南部では海水程度の濃度を示す。

(大津秀穂)